

## 2017年11月1日以降に

### 溶接技能評価試験の受験を希望される方々へ (新たな技能実習制度に基づく試験内容のご案内)

2017年11月1日に技能実習法が施行され、新たな技能実習制度が始まることに伴い、溶接技能評価試験の試験内容も11月1日より変更となります。

従来、中級試験・専門級試験はJIS Z 3801（手溶接）またはJIS Z 3841（半自動溶接）に基づく溶接技能者評価試験（JIS検定）を兼ねて実施しておりましたが、新たな溶接技能評価試験はJIS検定と切り離して実施いたします。また、中級試験は廃止となり、技能実習3号の実習生を対象とした上級試験が新設されます。詳細は以下のとおりとなりますので、ご確認下さいますようお願いいたします。

#### 1. 申込みの流れ

##### 【在留期限が2018年2月1日以降の実習生】

- (1) はじめに外国人技能実習機構に受験情報の連絡をしてください。外国人技能実習機構への連絡がない場合、受験の受け付けはできません。
- (2) 監理団体と当協会が受験日の調整をします。
- (3) 外国人技能実習機構に、確定した受験日の連絡をするとともに、受験日の35日前までに申込書類を当協会指定の窓口へ送付してください（申込書類については当協会HP掲載の「新たな技能実習制度に基づく溶接技能評価試験の申込みについて」参照）。

※在留期限が2018年1月31日までの実習生の受験申込みの流れは旧試験と同じです。

初級試験：国際研修協力機構（JITCO）経由で受付

専門級試験：当協会が直接受付

#### 2. 受験に際しての注意事項

- (1) 受験受け付け後のキャンセルはできません。受験されなかった場合は全て欠席とします。
- (2) 学科試験と実技試験は、同日・同一会場にて受験していただきます。学科試験または実技試験のいずれか一方を欠席した場合、両方欠席とみなします。
- (3) 欠席の場合、受験料金の返却は一切いたしません。よくよくご計画の上でお申込みください。
- (4) 受験は1回のみとなります。ただし、不合格だったものについては再試験を1回に限り受験することができます。実技試験においては、種目を変えて再受験をすることはできません。再試験の受験を希望する場合は、上記1. の手続きを速やかに行ってください。

なお、2017年10月31日までに旧試験内容で受験し、その再試験を2017年11月1日以降に実施する場合の試験内容は、旧試験内容となりますのでご注意ください。

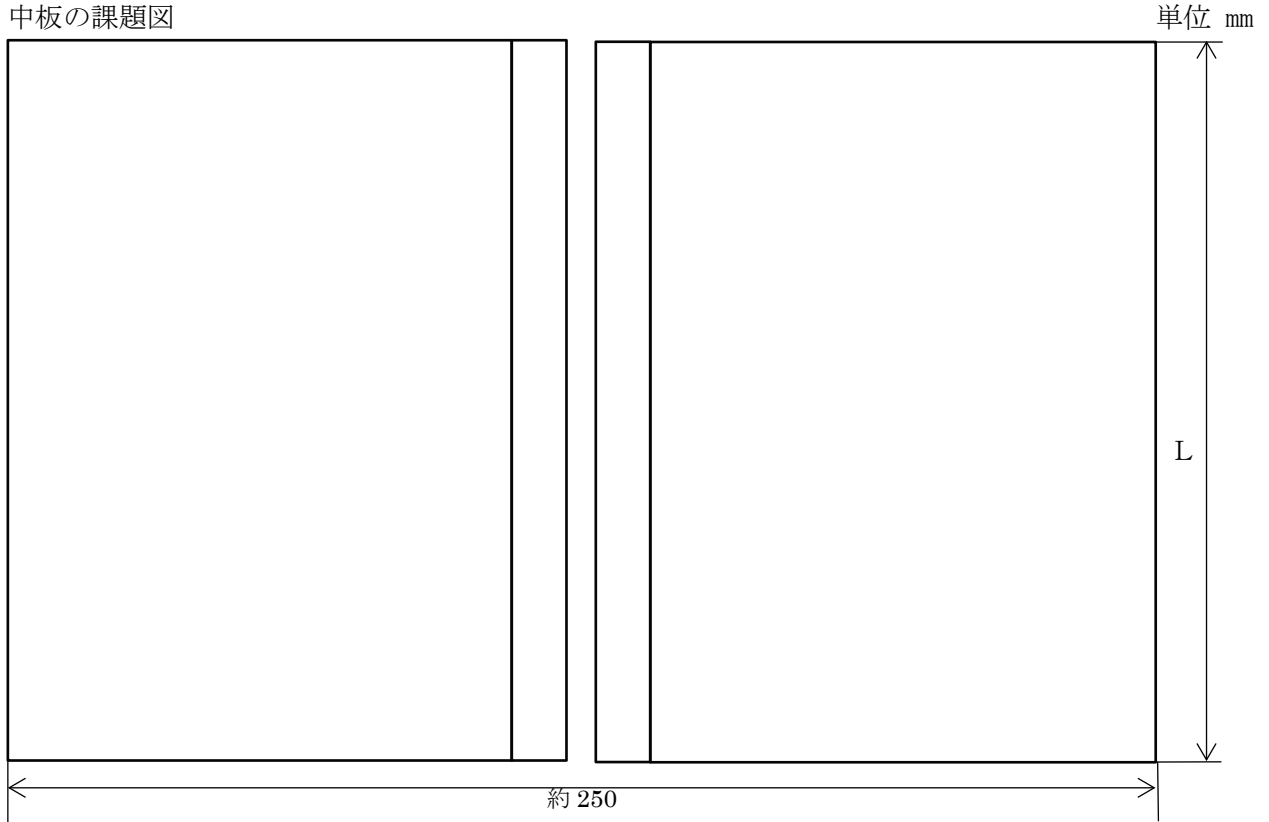
- (5) 専門級・上級試験において、学科試験の受験希望なしで申込みを行った場合、後から学科試験の受験を追加することはできません。

### 3. 試験内容一覧

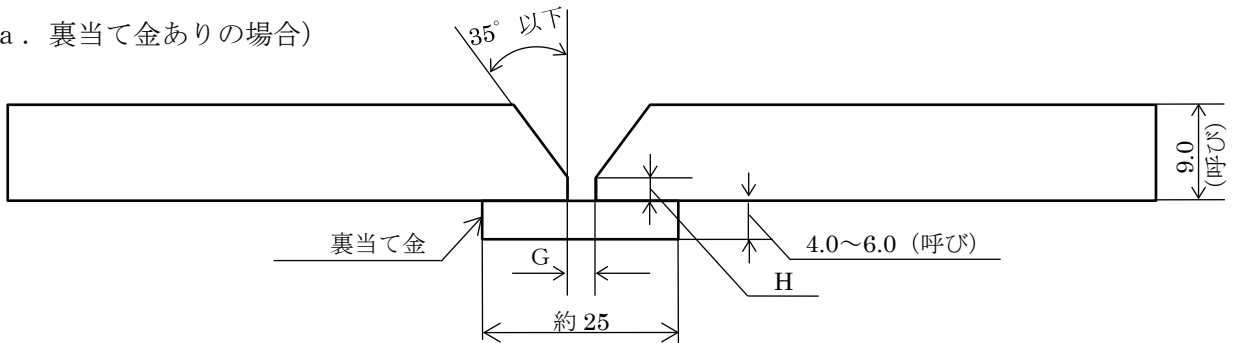
試験種別		初級	専門級	上級	
受験資格		技能実習 1 号の開始日から 6 ヶ月程度経過していること	技能実習 2 号の開始日から 12 ヶ月程度経過していること	技能実習 3 号の開始日から 12 ヶ月程度経過していること	
学科試験	必須・任意区分	必須	任意		
	言語	日本語(ひらがな分かつ書き)	日本語(漢字かな交じり+漢字にふりがな)		
	解答方法	真偽法(○×式)	多肢択一法		
	問題数(合格基準)	20 問(60%以上)	30 問(65%以上)	50 問(65%以上)	
実技試験(作業は初級〜上級で同一)	必須・任意区分	必須			
	手溶接作業	課題	溶接方法:被覆アーク溶接 溶接姿勢:次の①と②の両方(同時受験) ①下向(A-2F または N-2F) ②次のうち 1 つ 立向(A-2V または N-2V) 横向(A-2H または N-2H) 上向(A-2O または N-2O) 固定管(A-2P または N-2P)	溶接方法:被覆アーク溶接 溶接姿勢:次の①と②の両方(同時受験) ①下向(A-2F または N-2F) ②次のうち 1 つ 立向(A-2V または N-2V) 横向(A-2H または N-2H) 上向(A-2O または N-2O) 固定管(A-2P または N-2P)	溶接方法:被覆アーク溶接 溶接姿勢:次のうち 1 つ。ただし専門級試験で合格した姿勢は選択不可 立向(A-2V または N-2V) 横向(A-2H または N-2H) 上向(A-2O または N-2O) 固定管(A-2P または N-2P)
		判定方法	外観判定(JIS Z 3801 による)	外観判定および曲げ判定(JIS Z 3801 による) <b>※①と②両方の合格が必要</b>	外観判定および曲げ判定(JIS Z 3801 による)
	半自動溶接作業	課題	溶接方法:マグ溶接またはセルフシールドアーク溶接 溶接姿勢:下向(SA-2F、SN-2F または SS-2F)	溶接方法:マグ溶接またはセルフシールドアーク溶接 溶接姿勢:次の①と②の両方(同時受験) ①下向(SA-2F、SN-2F または SS-2F) ②次のうち 1 つ 立向(SA-2V、SN-2V または SS-2V) 横向(SA-2H、SN-2H または SS-2H) 上向(SA-2O、SN-2O または SS-2O) 固定管(SA-2P、SN-2P または SS-2P)	溶接方法:マグ溶接またはセルフシールドアーク溶接 溶接姿勢:次のうち 1 つ。ただし専門級試験で合格した姿勢は選択不可 立向(SA-2V、SN-2V または SS-2V) 横向(SA-2H、SN-2H または SS-2H) 上向(SA-2O、SN-2O または SS-2O) 固定管(SA-2P、SN-2P または SS-2P)
		判定方法	外観判定(JIS Z 3841 による)	外観判定および曲げ判定(JIS Z 3841 による) <b>※①と②両方の合格が必要</b>	外観判定および曲げ判定(JIS Z 3841 による)
	結果証明書発行までの期間(目安)		試験後 2 週間程度	試験後 2 ヶ月程度	

#### 4. 実技試験課題図

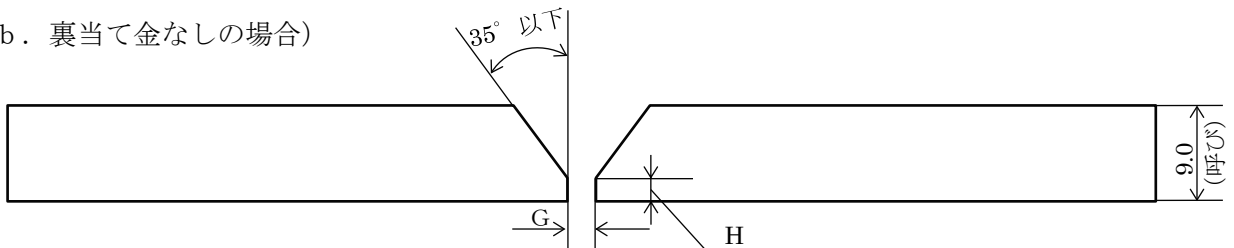
##### 1) 中板の課題図



##### (a. 裏当て金ありの場合)



##### (b. 裏当て金なしの場合)



開先形状は、V形とする。

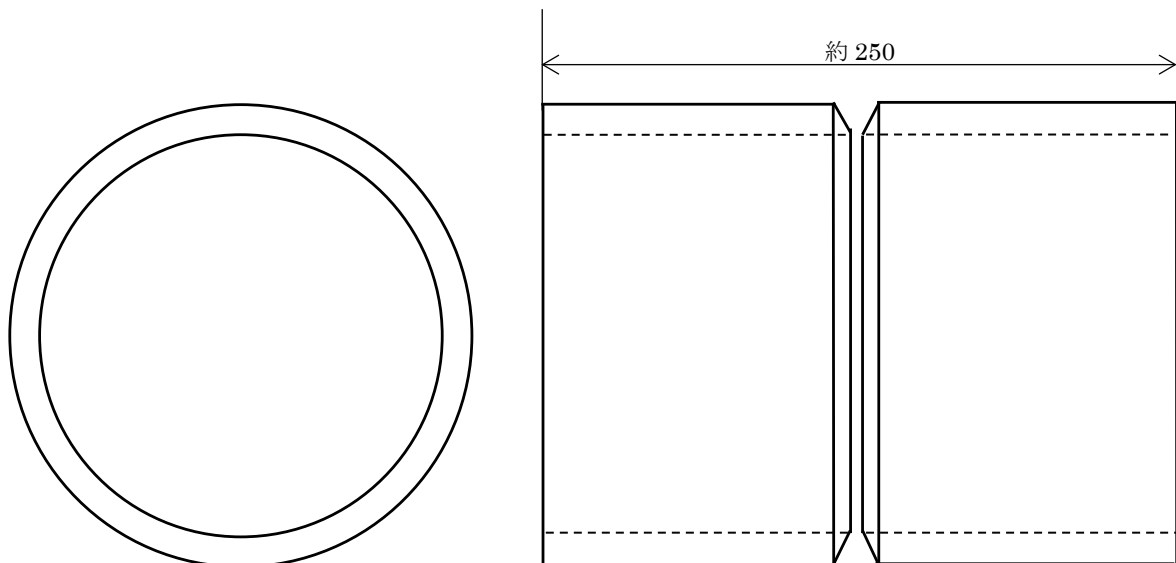
**注記** 板厚に付した（呼び）は、呼び寸法又は公称寸法であることを示す。

(寸法等)

作 業	裏当金	L	G	H
手 溶 接	あり(A)	150	5 以下	3 以下
	なし(N)	150	任意	3 以下
半 自 動 溶 接	あり(SA・SS)	200	5 以下	3 以下
	なし(SN)	200	任意	3 以下

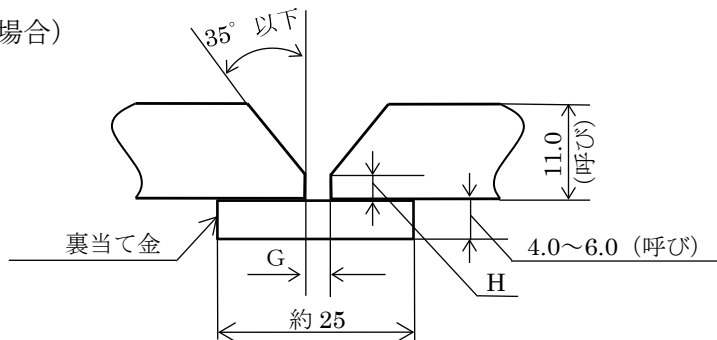
2) 中肉管の課題図

単位 mm

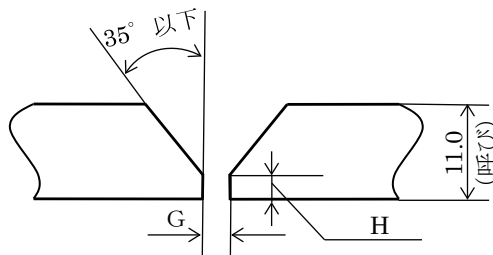


呼び径 150A (約 165)  
肉厚 11 (呼び)

(a. 裏当て金ありの場合)



(b. 裏当て金なしの場合)



開先形状は、V形とする。

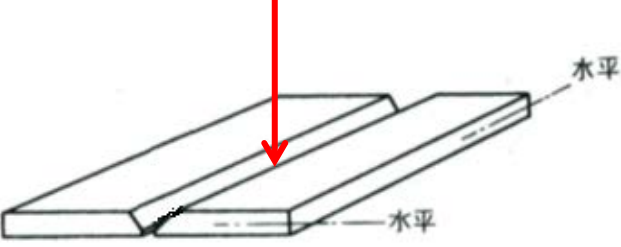
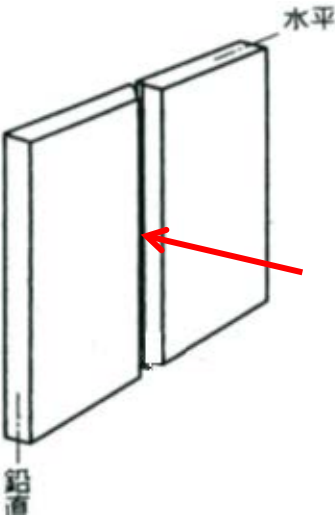
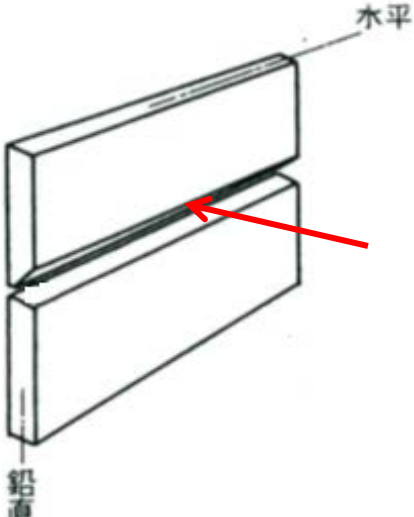
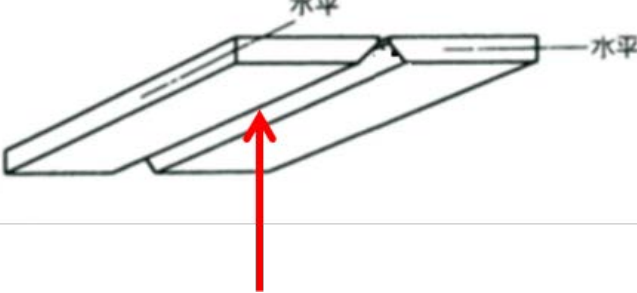
**注記** 肉厚に付した (呼び) は、呼び寸法又は公称寸法であることを示す。

(寸法等)

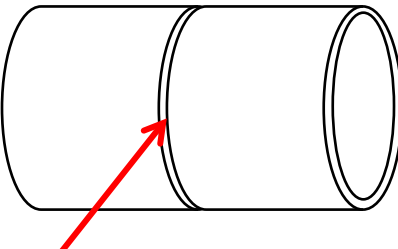
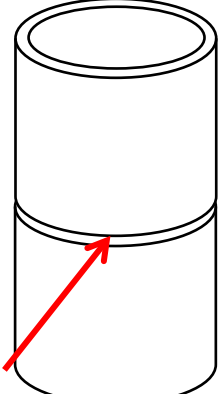
作 業	裏当金	G	H
手 溶 接	あり(A)	5 以下	3 以下
	なし(N)	任意	3 以下
半 自 動 溶 接	あり(SA・SS)	5 以下	3 以下
	なし(SN)	任意	3 以下

## 5. 溶接姿勢

### 1) 板材に対する溶接姿勢

<p>下向 (F)</p> 	<p>立向 (V)</p> 
<p>横向 (H)</p> 	<p>上向 (O)</p> 

### 2) 管材に対する溶接姿勢 (P)

<p>水平固定</p> 	<p>鉛直固定</p> 
---	--